



会報

やまぐち

No. 45

平成2年

2月発行

年頭挨拶

フォーカス'90



山口県土地家屋調査士会

年頭のごあいさつ

山口地方測量協会

藤田 典人



立春を過ぎ、もう本格的な春を待つばかりですね。会員の皆様方にはそれぞれお元気で

お仕事に励んでおられることと存じます。

さて、昨年は徳山市金剛山地区で「匠17系地図」の作製作業を実施する計画でした。

御承知のとおり、山口県管内には明治当初の請事情から、山林部について地図の備付けがなく、宅地開発が山林部に及んでいる昨今では、地図の整備が切望されるところで、同地区が開発されつつある山ろく部分を含んでいることから最優先地と考えたものです。

この計画は、請般の事情から、基準点設置作業に変更され、公共嘱托登記土地家屋調査士協会の請負いで、徳山地区の協会員の方々の手によって現在作業が進められており、2月中には成果が納品される運びとなっています。



春も桜の花の訪れと共にいよいよ本番を迎えて参りました。今年は降雪増気。平成31年

庚午一白水星の年と暦の上では記されて居ります。一白水星とは水の精を表して居りまして、季節や環境の変化に程よく

ところで、地図の整備については、国家基準点に結び付けられた各筆界を座標値によって表示する「数値地図」を法務局に備え付けることも、将来的構想としては語られています。実施されるとしても、まだまだ先のことでしょうが、会員の皆様にはそのような時代に備えて測量技術に磨きをかけられるよう願っています。ただ、土地家屋調査士であるからには、単なる測量技術者では足りず、不動産登記制度が地図を媒体として登記簿と現地とを結び付けることによって機能するものであることから、測量技術と相まって、登記のメカニズムにも精通なまわってこそ初めてプロフェッショナルと言えるのだと思います。

個人としても一流で、所属されるこれらの会の構成員としても優れていれば、個人も組織も、ともに高い社会的評価を得られるはずで。

会員の皆様方の研さんに期待し、会の御発展を心からお祈りしています。

山口県土地家屋調査士会会長

新本 清人

順応する性質を持つ水のように、流を抱きながら捲れて行く人生を象徴して居る種で目まぐるしく変化する時代の中で、世相はどの様に流れて行くだろうかと案じられるところでございます。

平成元年の年越しに当り除夜の鐘をテレビで耳にした私、除夜の鐘108ツについての意味を改めて確認したものでござ

います。些か駄弁を続けることを御許し願ひまして、除夜の鐘 108ツの中 107ツを年内に打ち最後の 1点を打って新年を迎える習しは子供の頃から親や周囲の人から教って知って居たものの、108ツの鐘の真髓についてその説明をすれば、洋の東西を問わず人間の業の根源には欲やむさぼりがある。これを仏教では煩惱と言ひ、その数 108ツ、貪(むさぼり)。

(いかり)。痴(おろかさ)。を中心に36の煩惱があるとされ、人生は過去・現在・未来の三世に亘るので $36 \times 3倍 = 108ツ$ の勘定となる。これを大晦日に除夜の鐘108ツに托し108煩惱の一ツツを鐘の音でもって洗い清めてサッパリした気持で新年を迎えることが出来るとされる由でございます。

煩惱の中、人間には七ツの大きな罪があると云われて居りまして、憤怒・怠惰・傲慢・貪欲・大食・嫉妬・淫欲と云われているし、又一方、七ツの美德とは、信仰・希望・慈愛・正義・思慮・剛毅・節制と云われています。

いや、とんだ駄弁を弄しました。

昨1989年は世界の情勢は大きくゆれ動き 100～70年間もの政策に終始した共産主義諸国の崩壊、東西ドイツの壁ブランデンブルク門の取毀、ルーマニヤのチャウスケスク独裁首相の失脚と処刑等、東欧民主化への動き。一方パナマに於けるノリエガ符軍の失脚等々。又国内に於ける大きなニュースとすれば、天皇の崩御や有名人の死亡に続き昭和は終りを告げ平成と改まると共に消費税の導入、リクルート事件、矢次早に内閣総理大臣の交替、参院戦の保革逆転などと色々ありました。初て我が土地家屋調査士会も制度発足以来40年の歳月を経て参りました。

今年は連合会や又地方単位会に於ても記念行事の計画を進めて居ります。

我々の行う測量業務も宇宙開発に従いレーザー光線による測量の時代を迎え様として居り、不動産登記法もいよいよブックレスシステムへ移行の方向にある中であって、全国 18,300人会員のうちには高年令層と若い層との差は段々と若い層に移って居ります。山口会々員 260人の中、30才～50才まで 61.24%、60才～80才代 38.76%の数字を示して居ります。

又平成元年度の受験者の中、合格者 10人を数えました。山口県 9人、島根県 1人の計 10人となります。12/19合格証交付式(法務局)に参列し祝辞を述べ極力入会案内を申し上げた処でございます。(この数字は前代未聞と藤田局長の弁)(新年度入会手続 3名済)

受託事件数は一般的に減少の一途を辿って居り報酬額運用の流れはと考へてみますと一般的に若い会員の受託並に 1件当報酬額の計算ともに若い会員が当会にて指導している標準に近いのも顕著に表れて居ります。調査士制度の今日を築く努力をして来たオールドメンバーの受託事件の減少は気になり又考えさせられるところでございます。又対策指導をと考へます。

調査士会今后 21世紀へ向っての否、今年これからの如何に展望して行くべきかを模索しつつ新しい年を迎えました。皆さんと共に充分討議し合って庚午年にあやかかって飛躍する馬の如く大きく努力をして参りたいと心から祈り、御挨拶とします。

土地家屋調査士制度制定40周年を迎えて

副会長 乗川良介

平成2年は土地家屋調査士制度制定40周年の年に当たります。

顧みると、表示に関する登記業務は、この間日進月歩の変化と充実が計られ、質の向上がなされて参りました。

特に旧台帳制度から登記簿一元化に変更され表題部登記になって後の取扱は、充実に充実を重ねて参ったと思います。

来る21世紀はブックレス時代となり、コンピュータ処理となる為、表示登記に添付する地積測量図並に建物図面、各階平面図等、各種地図が、数値処理されることとなり、更に取扱準則等の改正に伴い、高度な技術が、要求されることとなると思料されます。

我々土地家屋調査士も、一層の研鑽を積み時代のニーズに答え、制度発展と、職業的専門家としての自覚と資質の向上を計り、社会的評価の付加価値を高める専門集団となる必要があると思います。

幸い一般事件の処理に合せ、官公署の嘱託事件も、土地家屋調査士法の改正により、各県毎に設立された、社団法人である公共嘱託登記土地家屋調査士協会において受託処理が出来るようになり、各協会の役員の皆様の日夜の努力により、事件受託の開発がなされ処理状況から見ても、着々とその実を上げて参られているところであります。

この時に当り40周年を迎えたことは大変に意義深いものがあります。

会員の皆様とより強固な連帯性と帰属意識を高め、団結を強化しつつ来る21世

紀に向け魅力のある土地家屋調査士会を築こうではありませんか。

ところで、この40周年記念事業であります。日調連でも、式典を始め、各種事業が計画されています。又、各単位会にも何等かの節目的行事を計画するよう要請がなされました。

中国ブロック各単位会においても、去る平成元年11月6日の会長会並に、今年1月27日開催の中国ブロック総務担当者部会において、全会日調連の要請に沿って実施することを申合せました。我山口会においても、去る1月8～9日の新年理事、支部長合同会議において、実行委員会を発足させ1月20日の理事会で正式に決議して、各委員会別に計画の検討に入りました。

委員会の構成は別表の通りであり、記念式典関係は総務部が担当し、来る5月29日の第43回定時総会の当日実施し、記念誌関係は広報部に各支部長が加わり、平成2年度中に発行が予定されている「会報やまぐち」を増頁の上、集録発行される、又記念行事関係は、企画部が担当し、充実した講演を計画しているところであります。具体的内容は委員会を開催し決定されるものですが、いずれにせよ、少ない予算の中で計画し十分な事は出来ないと思えますが、役員一同精一杯の事業を実施し、皆様と共に更に充実感に満ちた山口県土地家屋調査士会の益々の発展の一助となることを祈願しているところでございます。

40周年記念事業実行委員会

委員長 新 本 会 長
 特別委員 三 好 名 誉 会 長
 西 山 相 談 役
 中 原 前 相 談 役

	副委員長	主任委員	委 員
記念式典関係	兼川副会長	八木部長	平井理事 福田理事 友麻理事
記 念 誌	竹内副会長	田中部長	野上理事 鶴巻理事 河村理事 東・宮崎・山根 青木・上村 高野・米原 各支部長
記念行事関係	高田副会長	三好部長	山本理事 阿部理事 田代理事



リコーのイメージ情報処理技術が、明日の統合のAシステムを実現します。

技術と サポート力で お役立ちの RICOH

お問い合わせ

山口リコー 0839(27)4630
0839(27)4440

リコーテクノネット 0839(23)2477

DAFLフォンセンター WFF 082(246)1299
P/W 082(246)3217

ご利用は…

株式会社 徳山大学附属総合センター
 〒740 0834-21-11231
 徳山北条町 3-4-1
 〒740 0824-31-9789
 徳山北条町 4-10-3
 〒740 0820-22-2427
 徳山大学附属総合センター
 〒715-02 0839-21-4440
 広島大学附属総合センター
 〒731-02 0834-27-4449
 広島大学 3-2-1
 〒734 0830-11-9772
 広島大学 3-1-2
 〒731 0830-11-8011
 1階 広島大学 3-14-15
 〒731 0830-14-0129

「フォーカス'90」 “これは 珍しい”

これは館町・実和町にまたがる
 細庚山の二等三角点です。山頂に
 登った人はこの四角い石を地蔵さ
 まと思ふのか、まい繩をあげて大
 事に見守っています。道祖神のよ
 うに、登山者の安全を祈願してい
 るのでしょうか。（三角点の前には
 こう書いてあります。「さい飯お
 きはできるだけ100円玉以上おい
 て下さい」） （河村）



“ムムッ これはできる!”

昨年9月に、厚生部主催の「萩
 史跡探訪」が行われた際、釜元
 を見学しました。数名の希望者が
 萩焼き作りに挑戦し、能をこね
 て、コップや皿や茶わんを作り、
 焼きあげてもらいました。その出
 来あがりの作品です。どれも力作
 ばかり、作製者の名が入り、リッ
 ぱな萩焼きが出来あがりました。
 （田中）



“レ ト ロ”

最近レトロはやり。下松のレトロパ
 ールという催し物で、昔のトランシ
 ットが、所有者からちょっと借りてバ
 ッリ。技術の進歩はすごいものです。
 （田中）



遊び心でフォーカスしませんか。
 会員の皆様からの写真を募集してい
 ます。

平成元年度 新年役員会報告

— 本部長理事・支部長合同会議 —

平成2年1月8日・9日の両日、恒例の新年役員会が、山口市の山口県婦人会館で開催されました。

主な協議事項は次の通りです。

- ① 4月1日(日)に表示登記の日を行うということと、それへの広報活動について
- ② 平成2年度事業について
定時総会は5月29日(火)の予定
- ③ 報酬研究委員会設置について
- ④ 土地家屋調査士制度制定40周年記念行事について

念行事について

2日間にわたり、事業と行事報告がなされ、それに関する質疑が行なわれました。特に今年は、上記の40周年記念行事が行なわれることとなり、「それには何をするのか」ということで、いろいろな意見が絞出されました。

その後、平成2年の新春にあたり、会員が飛躍の年にするという決意をもって会議を終わりました。



信頼をお届けします

UBEX

株式会社ウベックス

本 社 宇 部 (0836) 21-1147
 下関営業所 下関 (0830) 22-0113
 山口営業所 山口 (0839) 23-0380

FUJI XEROX

取扱商品

- 複写機(ゼロックス)
- ワークステーション
- ファクシミリ●ワープロ
- パーソナルコンピューター
- オーバーヘッドプロジェクター
- その他O A 関連商品

宇部営業所 宇部 (0836) 21-1147
 防府営業所 防府 (0835) 21-7771
 萩営業所 萩 (0838) 6-0431

平成元年の年計表の集計から

1. 事件数の伸び昨年度との対比、 2. 報酬額の動向と会員の年令層、 3. 毎年、年計表の提出が遅延する会員及びその数、 4. 今後の展望について、

事件数	昨年 37,340件	今年 34,845件	
			昨年比 93.31%
報酬額	昨年 1,722,796,721円		
	今年 1,872,989,569円		昨年比108.71%

以上と別表1・別表2に記載の数を分析して一般に若い会員層の報酬額は当分で指導している標準報酬額運用基準に近くて高額であるのに比し、オールドメンバーである高令者会員の報酬額は極端に低額である、ことが理解される。平成2年2月10日現在、年計表の未提出者は会員総数の40%であって、再三にわたり督促した結果同2月27日現在の未提出者は263名会員中7名である。これは事件簿の備付の不備か又は整理不十分か

ら来る要因と思料されるので今後会員指導の対象となるだろう。先づ手始めとして、未提出や毎年提出が遅延する会員の事務所を個別に訪問し、実体を調査さして貰い指導に努めるに外ないとも考えるところである、今後の展望については登記制度の改められるに従いブックレスシステム移行後の事務処理と地図整備に対する対応と併せ更に事件数の伸びがどの様に変動するであろうか、宇宙衛生からのGSPの声も耳にするこの頃であるが調査士は細部測量をするについては総て新しい光学機器にのみ依存することなく、極地に臨んでは精度の良い鋼巻尺による検測や境界確認業務の徹底等、その職域は益々高度化を望れる世の中にあって、真に国民から要望に応じて行ける様努力研鑽を重ね、これに見合う報酬を頂戴出来る様努力と希うものである。



年計表から見た報酬

平成2年2月23日

支部	会員数	100万円以下	300万円以下	500万円以下	800万円以下	1千万円以下	2千万円以下	2,000万円以上	計
岩国	53人	15	12	6	6	3	9	2	53
徳山	43	6	17	5	1	4	5	5	43
防府	24	4	5	4	4	1	2	1	21
山口	33	4	9	8	8		7	1	37
萩	23	4	7	2	1	1	3		18
宇部	38	3	8	9	2	1	8	3	34
下関	46	4	9	4	6	1	12	2	38
計	260	40	67	38	28	11	46	14	244
								未提出	16

山口県土地家屋調査士会年齢別人員数

平成2年1月1日現在調

支部年齢	岩国	徳山	防府	山口	萩	宇部	下関	合計	%
30才	9人	6人	3人	8人	3人	12人	4人	45人	17.44
40才	14	12	4	6	7	7	15	65	25.19
50才	10	9	7	6	3	3	10	48	18.60
60才	10	9	8	6	5	7	11	56	21.70
70才	6	6		8	3	7	3	33	12.79
80才	2	2	2		1	2	2	11	4.26
合計	51	44	24	34	22	38	45	258	

30才～50才まで61.24%

60才～80才以上38.76%

27才が1名 山口1

(S 38生)

—公嘱協会だより—

公嘱調協会も頑張っております

公嘱調協会は設立から第5年度を迎え、平成元年度の事業実績は1月31日現在、受託金額が1億6千万円を超えました。重点活動として取り組んでまいりましたJR関連業務も担当社員各位の昼夜を分たぬで尽力により1月末で業務を完了し、成果物の納品を行いました。

現在、官公署では年度末を控え、計画の総仕上げと次年度に向けての対応に鋭意お取り組み中ですが私どももここで一奮発して有終の美を飾りたいものです。

今回は協会設立からの足どりを迎ってみました。 (白井記)

設立からの足どり

- 設立総会 S 60. 10. 7 社員 111名
- 設立認可 S 61. 1. 8
- 設立登記 S 61. 1. 17
- 昭和60年度 (61. 1. 7 ~ 61. 6. 30) 事業収入 0円 社員 118名
- 昭和61年度 (61. 7. 1 ~ 62. 6. 30)
 - 事業収入 20,993,266円 社員 120名 1人当り17.5万円
 - 発注機関 11 (主 住宅供給公社、地域整備公団、山口市等)
- 昭和62年度 (62. 7. 1 ~ 63. 6. 30)
 - 事業収入 48,060,647円 社員 125名 1人当り38.4万円
 - 発注機関 15 (主 JR西日本、住宅供給公社、山口市等)
- 昭和63年度 (63. 7. 1 ~ 平成元年 6. 30)
 - 事業収入 90,865,636円 社員 131名 1人当り69.3万円
 - 発注機関 18 (主 JR西日本、山口市、住宅供給公社、新南陽市、建設省山口工事事務所等)
- 平成元年度 (平成2年1月31日現在)
 - 受託金額 160,407,388円 社員 134名 1人当り119.7万円
 - 発注機関 21 (主 JR西日本・貨物、住宅供給公社、徳山市山口市地方方法務局等)

「登記なんでも相談」と題して

登記無料相談所設置



平成2年2月1日、2日、5日、6日の4日間JR下関駅のシーモール2階「集の広場」他3会場にて登記無料相談所を設置しました。

不動産登記法が制定され昭和62年2月が100周年目に当たりこれを記念し毎年2月1日を「登記制度記念日」と定められ、この記念行事の一つとして山口地方法務局、山口県司法書士会、山口県土地家屋調査士会の三者が一体となり毎年場所を変えながら登記なんでも相談として無料相談所が設置されているものがあります。

今回は、相談員として山口地方法務局下関支局より4名、司法書士会より7名、



調査士会より7名の計20名が相談に応じたところ、場所の選定が良かったのか平日にもかかわらず終始相談者が絶えることなく最終的に全会場で99件の相談があり、盛況でありました。

又、同会場には登記等に関するビデオの放映もなされこれに見入っている人達の姿もありました。

この登記なんでも相談催物のP.Rは、シーモールの館内放送や各広報、報道



機関を通して行われましたが、中でも法務局の実習車に看板を取付けて宣伝カーに仕立て高田会員が吹込んだ登記無料相談開催案内のテープを下関支部一円に流して回られたそうであります。

これから先も、この登記なんでも相談をはじめとして機会ある度に法務局、司法書士、土地家屋調査士、それぞれの業務内容を一般の方々に認識してもらい同時に我々の社会的立場を理解していただけるようP.Rに努力してまいります。

雑談・ノブレス・オブリージということ

事務長 嘉 村 復 亮

みだしの言葉は本年度の定時総会において、木下先生の発言の中にあっただもので、まだ皆さんの記憶に新しいことと思います。木下先生のこの言葉を発言された趣旨は、規範的に調査士会指導部のあり方を述べられたものと思いますが、木下先生の口から発せられると違和感なくひびくのが妙です。

最近、1月のある日曜日、いつものくせでゴロ寝して雑文を読んでいると、たまたまこの言葉が目にとまりました。本来この言葉の生れた背景は、19世紀前半の英仏にみられた新興貴族階級の出現にあり、新興貴族階級の独断専横的振舞に対するブレーキとして掲げられた理念とあってよいでしょう。

英和辞典でこの言葉を確認すると「高い身分に伴なう徳義上の義務」とありますが、19世紀前半の歴史の実体は、なかなかこの理念通りにはいかず、産業革命後のめまぐるしい社会の変化進展は、紡績工場を始めとする諸工場の出現・都市の形成、農村社会の人口流失等と続き、社会の二極構造化はますます増幅されるばかりであったのはご承知の通りです。

当時の教育制度として義務就学制度が

なかったため、貴族階級による慈善学校の経営（C・ブロンティ（1816～1855）の小説ジェイン・エアにいきいきと描き出されております）、救貧院の経営などが貴族階級のノブレス・オブリージ実践の例とみられますが、当時の学校経営者の恣意的経営ぶりは、またジェイン・エアに見事に描出されている通りで、19世紀前半の当時は、まだまだ自由放任、弱肉強食的色彩の強い社会であったようです。

19世紀前半に生れたノブレス・オブリージという言葉が、21世紀に臨もうとしている現在、過去の単なる死語でなく、いきいきと甦って活用されたことに新鮮な驚きを感じておりましたが、このたび雑文中にまた目にふれて筆をとった次第です。



私の履歴書から

山口支部 青木 正 治

私は高校の農業土木科を卒業し、東京の測量会社（測量部）に入社しました。この会社は住宅整備公団、住宅供給公社、市町村の発注する区画整理事業の測量を主にしており、私はこの会社に10年間勤務しました。業務内容は基準点設置作業から始まり、現況平面、道路センター杭設置、画地測量等の作業です。昼間は測量、夜は測量計算という毎日でした。しかしながら、1つの現場を工程表に基づいて作業していたので、今の仕事のように小さい現場を沢山かかえてする仕事よりも作業的には楽でした。この会社で10年経った頃、何か資格を取って山口に帰ろうと思い、この会社を辞めて司法書士・調査士事務所に勤めるようになりました。現場中心の生活から事務の仕事へと生活環境も一変しました。また、司法書士の資格を取りたく土曜と日曜には専門学校に通いました。そこで、



司法書士の資格を取得する前に調査士の資格をと思い、半年間調査士専門学校に通い、また夏には20人の調査士受験仲間と合宿し、その年に調査士に合格する

ことができました。

事務所の業務内容は、主にマンション関係の仕事をしており、受託事件のうち調査士事件数が1千件、司法書士事件数が1万件であり、有資格者3人、補助者



8人で処理していました。主な仕事はマンション関係であったので、事件の処理も早く、この仕事は儲かるなという印象でした。また土地は月に1件ペースで、都庁の立会は申請しても、2カ月ぐらい待たされていました。勤務時間は朝8時30分から午後6時までであり、土曜、月曜は専門学校に通うという毎日でした。司法書士の資格をとらぬまま山口に帰郷し、調査士業務をやり初めて驚いたのは、受託事件のほとんどが土地の仕事ばかりであり、特に筆界の立会で非常に手間がかかるということです。東京で少し楽をしたせいかも知れません。

今ではおかげさまでどうにかこうにか業務を遂行しております。今後も会員皆様方の御指導の程お願い申し上げます。

第7回全国囲碁大会に参加して

山口支部 渡 辺 満 洲 生

平成2年2月3日(土)と2月4日(日)の2日間、東京の日本棋院において、全国土地家屋調査士親睦囲碁大会が開催されました。山口会からは三好敏夫会員と私が参加いたしました。3人1組でAブロックとBブロックに分かれて対戦しますが、今回は鳥取会との混成チームで大会に参加しました。成績は団体戦・個人戦・本院坊戦とも負け、山口会は全くいいところがありませんでした。全国から

囲碁の好きな会員が一堂に集り、勝負もさることながら種々話がはずみ、非常に親睦を深めることが出来たと感じました。ただ、関東地方の参加者が多く、北海道・沖縄の参加がなかったのは少し残念でした。来年は山口会で1チームを作り、優勝杯を持ち帰りたく思いますので、囲碁愛好会員の方は、腕を磨いて、来年の大会に臨みませんか？。

平成元年度 土地家屋調査士試験合格者名簿

受験番号	氏 名	生年月日	住 所
5001	は 埴 生 正 行	昭30 1 18	宇部市亀浦1丁目2-21
5004	わ だ 田 祐 二	昭40 1 8	宇部市大字東岐波840番地
5026	よ し 義 満 一	昭23 3 9	下関市神田町2丁目13-9-205号 リバーシティ21
5027	みや ざ き 崎 幸 三	昭22 5 12	下関市上条町1番19号
5042	は し 橋 本 和 志	昭30 5 16	島根県鹿足郡日原町日原529
5062	こ 小 原 秀 夫	昭30 3 5	大島郡橋町大字東安下庄1518
5074	の 野 坂 政 一	昭 7 12 15	熊毛郡大和町大字三輪1397-3
5093	と 戸 倉 自 茂 雄	昭34 5 3	徳山市河東町1-25
5094	ふ じ 藤 本 精 二	昭27 10 14	宇部市東本町1丁目6-3
5096	た 田 上 陽 一	昭23 11 11	山口市朝倉町1番8号

－お知らせ－

◎ 登記手数料の改定について

平成2年4月1日から会社及び各種法人の登記簿の閲覧が有料(300円)になるとともに、登記簿の謄本・抄本・証明・閲覧等の手数料が改定されます。主な改正点は下記のとおりです。

申請内容	手数料額
① 登記簿の謄本・抄本, 登記事項証明書	1通 500円
② 商号・未成年者・後見人・支配人登記簿の謄本・抄本	1通 300円
③ 登記簿等の閲覧	1登記用紙(事件) 300円
④ 登記事項要約書	1登記記録 300円
⑤ 地図又は建物所在図の全部又は一部の写し	1筆(個) 300円
⑥ 地図又は建物所在図の閲覧	1枚 300円
⑦ 登記事項に変更がないこと, ある事項の登記がないことの証明	1件 300円
⑧ 印鑑の証明書	1件 300円
⑨ 鉱害賠償登録簿の謄本・抄本	1通 500円
⑩ 鉱害賠償登録簿等の閲覧	1登録用紙(事件) 300円

※ ①及び⑨の手数料については、平成3年4月1日から1通600円となります。

◎ 防府支局移転について

山口地方法務防府支局は、庁舎新営に伴い、3月26日(月)から下記へ移転します。

記

防府市寿町6番39号 (〒747)
 防府地方合同庁舎
 電話(0835)22-0934
 (従前どおり)



事務局だより

会務報告

- 12月19日(火) 調査士試験合格証書授与式
- 1月⁸/₉日(月) 理事会・支部長会
- 12日(金) 三者協議会
- 20日(土) 理事会
- 27日(土) 中国ブロック会長会・総務
・企画部会
- 2月1日(木) 登記の日無料相談所
於 下関市役所
- 2日(金) 登記の日無料相談所
於 シーモール専門店街
- 5日(月) 登記の日無料相談所
於 豊北町役場
- 6日(火) 登記の日無料相談所
於 豊田町役場
- 16日(金) 中国ブロック新入会員研修会
17日(土) 於 広島市
- 23日(金) 登記部門との協議会
- 27日(火) 総務・経理部会

行事予定

- 3月3日(土) 企画委員会
- 15日(木) 部長会

会員異動状況

1. 会員入脱会状況

支部	氏名	年月日	入脱会
下関	宮崎幸三	2.1.10	登録入会
〃	義岡一	2.1.10	〃
宇部	和田祐二	2.1.10	〃
岩国	植野勝昭	2.1.20	〃
徳山	山本保一	1.12.28	脱会
下関	宮崎衛	1.11.9	入会

2. 事務所変更他

支部	氏名	変更事由	年月日
岩国	高松孝一	住所変更	1.10.1
		熊毛郡平生町大字大野北198-15	
	高松孝一	事務所変更	1.9.26
		熊毛郡平生町大字平生村153-10	
宇部	上原英治	事務所変更	1.10.23
		小野田市稻荷町9番14号	
	瀬口哲義	事務所変更	1.10.23
		小野田市稻荷町9番14号	
	瀬口潤二	事務所変更	1.10.23
		小野田市稻荷町9番14号	
萩	伊藤正典	住所変更	1.10.31
		長門市仙崎1104番地の1	
下関	米原茂樹	住所変更	1.11.27
		下関市梶栗町2丁目6番23号	
	内田貞男	本籍変更	1.11.27
		下関市安岡本町1丁目1873番地	
	内田貞男	住所事務所変更	1.11.27
		下関市安岡本町2丁目1番21号	
宇部	高野一夫	住所変更	1.2.20
		宇部市亀浦3丁目6番15-1号	

部会よりのお知らせ

○ 総務部・経理部

平成2年1月8日・9日 山口県婦人会館に於て理事会・支部長会議が開催され1月～3月及び来年度の計画について審議された。

総務部は三者協議会の議事録の追録及び総会の準備。

経理部は決算書と来年度予算案の作成。

総会は交通の便を考え場所は小郡。日時は会場の確保がむづかしいため5月29日を予定した。法制定40周年記念行事については、記念式典関係、記念誌関係、記念行事関係の各委員会に於て検討することにした。

平成2年1月27日 岡山に於て、中国ブロック総務・企画担当者会議が行われ各単位会の法制定40周年行事の取組みについて下記の通り、各会の中間報告がされた。

島根会

総会の日には記念式典、記念品の配布、記念誌PRは従来通り。

岡山会

4月1日表示登記の日、山陽新聞に対談方式で掲載する。(広告料◎10,000×100人)

広島会

- (1) 40周年を機会に広く一般に土地家屋調査士のPRを行う。(方法については省略)
- (2) 会員相互の親睦もしくは記念品の配布をする。

島根会

現在検討中。25年7月に制定されたのでそれ以降の9月の研究会を当てる予定。講師・記念誌は30周年を参考にし、PRは新聞広告、宣伝広告ハガキなどを考えている。記念品はこれから考える。

山口会

総会の後、三浦連合会長の講演を予定。表彰対象者の拡大を考えている。記念誌は会報山口を増頁。本部研修会は外部講師を呼んで充実したものになりたい。

40周年記念行事について各単位会の事情、山口会の計画の打合せをしてみて、これ等特別行事を行うについては可成りの経費がかかり、資金の手当てが非常にむづかしいと感じた。いづれ50周年もあることであり、これら特別行事に対する“会”としての取組み方、資金面などの検討が、今から必要なのではないだろうか。

なお、総務部会所管の懸案事項次の通り。

(1) 共済制度について

㊦ 自家共済制度の改訂について

現在1口350円を500円にアップし2口加入を目標とする。

死亡退会のみでなく、生存退会についても考慮したものにする。

㊧ 賠償責任保険

単位会で代理店加入しているものを、連合会扱いのものに変更方、検討すること。

(2) 労働基準法改正に伴う補助者対応について

週46時間労働、平成3年4月1日実施。補助者を定着させるためにも必要。隔週2日休みで対応出来る。

(3) 国民年金基金法

平成2年4月1日より実施される。



○企画部

出張部会（他県研修会に参加して）

企画部長 三好一敏

2月10日～11日の2日間我企画部は、今では陸続きとなった四国、愛媛会の研修会に参加する機会を得た。陸続きとなったとはいえ、山口県から四国へは船が最も一般的な足である。柳井港へ集合した高田副会長以下3名の企画部員は、朝早く起き出して来たためにいさか眠そうである。柳井港から松山三津浜港までの2時間半は、もっぱら自習時間とし、午後1時からの研修会に備えることとした。

会場は、船が着いた三津浜港からタクシーで30分位の所にあるホテル奥道後である。ジャングル温泉、ガーデンプール、ロープウェイ等を備えたリゾートホテルで、着いて一番、そのホテルの規模の大きさに驚いた。ホテル内を迷子になりながら「誤差論」の講義が行なわれる会場に着くと、出席予定者170名の大半がすでに来場し、熱気を肌で感ずることができた。四国四県は交流が盛んであると聞いていたが、高知会・香川会からも数名が聴講に来ておられ、我山口会の企画部4名も他県聴講生として最前列で受講することとなった。

講師は、全て会員により行なわれた。山口会での企画委員に相当する会員が、測量の各テーマ毎に自己が勉強し、研究したことを、自信をもって発表している。昭和62年に数値17条のモデル作業をこなし、各会員が苦勞を供にし、成し遂げたことが若手会員への刺激になり、発奮材料となったと思われる。

1日目の研修会終了後は、同ホテルの別室にて懇親会である。四国地区の会の活動状況を知る上で、大変意義深い。又大変参考になる話を各県の役員から聞くことができた。連合会からも三浦会長が来られており、愛媛会の一般会員と談笑しておられる様子を、ほほ笑ましく思ったものであ

る。

2日目の講義は「地籍調査における誤差の取扱」というテーマで、前日同様、会員講師で進められた。研修資料は、香川会で作ったものだと聞く。80頁余りのテキストは、地籍調査担当の専門家がかなりの時間をかけて作ったとしか考えられない立派なものである。

2日間の講習を終えて、船上の人となった時、企画部の感想は、「四国は、やるなあ！」という感嘆の声であった。「百聞は一見にしかず」のことわざどおり、一般会員にあっても勉強をしたい会員を連れて行くべきだったと、反省もさせられた。それが将来の山口会の為にもなるであらうと思えたからだ。

最後に、昨年2月の松山岡根点設置地区への見学会、9月の中国・四国ブロックの親睦ソフトボール大会。そして今回の研修会。さらに、防府支部が支部研修として、松山岡根点設置地区の視察と、愛媛会の会長初め多くの役員の御迷惑を顧みず、お世話になったことを心から感謝し、今後共交流の輪が拡大していくことによって、両会が発展していくことを願っております。



○広報部

会報発行年4回体制の8、11、2月号の発行も終わり現在次年度事業計画の草案作成にかかっております。前回号でも御案内申し上げましたとおり、今年は土地家屋調査士法施行40周年を向かえ、会報の11月号を40周年記念増刊号としようという意見も出ております。過去のいろいろな貴重な資料、写真等がございましたら、どしどし広報部までお寄せ下さい。よろしくお願ひします。

目 次

年頭のごあいさつ	2
調査士制度制定 40周年を 迎えて	4
フォーカス 90	6
新年役員会報告	7
年計報告談	8
公債協会だより	10
登記なんでも相談	11
随 想	12
私の履歴書から	13
全国曲藝大会に参加して	14
お知らせ	15
事務局だより	16
部会よりのお知らせ	17

発 行 山口県土地家屋調査士会

山口市旭通り2丁目3番15号

電 話 (0839) 22-5975

F A X (0839) 25-8502

販 替 下関 9-11085

発行者 山口県土地家屋調査士会

会 長 新本 清 人

広報担当副会長 竹内 重 信

広 報 部 長 田中 拓 朗

副 長 鶴 巻 栄 一

野 上 茂 樹

河 村 誠 一

印刷所 桜プリント企業組合

山口市旭通り1-5

電 話 (0839) 22-1712

表紙のことは

練坊のこと

天保年間(約150年前)に書かれた藩庁の記録に「御供市中其外、在の名数千人、なかには裸素足の細いの若もあり声を立て押し合い蹴行き足も地に着かず。然れども怪隼人のこれなきはまことに御神徳あらたなり。通御の時、お迎えの高提灯数万、社殿の大石段を車も解かず引揚げるとき数千人の若が手に手を繋ぎいっさんに引揚ぐる。その声おびただしく有之候」とある。

現在でも5千名を下らない練坊が奉仕する。「兄弟ワッショイ」の掛声勇ましくもみあう白装の練坊の盛動に、ゆるぎない天神信仰の重みが感じられ深い感銘を受ける。

